

2013・9・21 日本社会福祉学会第 61 回秋季大会（於北星学園大学）

シンポジウム

～貧困と社会福祉～貧困問題の創造的実践を考える～

『37 年福祉現場に身を置いて』

一般社団法人釧路社会的企業創造協議会 櫛部武俊

【1】障がい児療育からはじまる 1975 年釧路市職員、障がい児通園施設に勤務

◆療法を振り回し、振り回される

・遊戯療法・行動療法 etc。施設職員敵論、施設解体論、体罰や強制、人質論

◆『生活力の形成』理論の中で「発達」と「生活」に目を向けた実践・生活リズム etc に
取り組みと職員のまとまり 実践報告書

◆『先生！苦しかった』・生活の切り取りと支援

◆園長制反対運動→紙一枚で異動になる行政の「怖さ」と「ルール」

【2】生活保護適正化の中で

◇1973 年から数年間 CW 職採用・いわゆる革新市政下で（横浜市もそうだった？）

◇1988 年保護課に異動。1981 年 123 号通知が監査とパワーハラスメントによって職場に
浸透・減額補正・申請受理数値・ごみの決裁・見込み廃止・過労死・扶養義務と人事異
動 etc ・自尊心なく暗い職場 アルコールやパチンコと

■和歌山県御坊市の暴力団不正受給事件（1981 年）・「被保護世帯の子どもたちが中卒後、
高校に進学できず中卒後 2～3 年で暴力団に加入（北九州でも）。‘生存権保障は経済的な
保障さえすれば良い’・ケースワーク処遇を否定する考えが行政当局と被権利者運動の双
方から根強くあった<宮武正明>

◇「申請権を侵している」という監査指摘に驚愕

◇バブル崩壊から地域経済の衰退（水産）1997 年から生活保護世帯の増加へ 2002 年の国
内最後の営業炭鉱閉山・一気に 30%から 40%へ

◇市民のモラルパニック・抗議・通報

◇会計検査院ショック・濫給問題

◇CW 慢性の人手不足・対決型から提案型へ 職場に内発的な動き業務検討委員会

・地域の危機が背景に、主体的な対応が追い付かず・

【3】自立支援の取り組み

◆2004 年「福祉部会生活保護制度の在り方に関する専門委員会」・ステップアップ自立論
とプログラム化（2000 年社会的な援護を要する人々に対する社会福祉のあり方に関する検
討会）・社会的孤立と排除

◆2004年～2005年生活保護受給母子世帯自立支援モデル事業

第1次ワーキンググループ会議（地域委員）・地域資源の中に当事者の承認・役割

延べ6000人の参加（2012年度）・18事業所（NPO～株式会社）

◆釧路の自立支援モデルいわゆる三角形（稼働能力の all or nothing の息苦しさからの解放・・・ホッとした）・・・自己完結型福祉事務所

◆2010年生活保護受給者の社会的な居場所づくりと新しい公共に関する研究会・・・自立論・多様な働き方・社会的居場所・官民協働

◆第二次ワーキンググループ会議・・・半就労・半福祉、社会的自立論。（専大社研・鈴木<一種の参加所得、条件付きベーシックインカム>）

【4】社会的居場所と連動した仕事起し（労働の場の保障）

◆地域の困りごと+受給者が地域の担い手・漁網の整網・ふまねつと製造・・・中間就労、ペイドワーク化・議会 生活困窮者は市民の多数派

◆今日的な生活力形成の課題（健康・仲間・食事・家計）

【5】生活保護・生活困窮者自立支援にかかわる法案を巡って

◆生活保護は資格化??・・・

◆受けてからの自立支援+受ける前からの自立支援の広がり（面接と自立支援の結合）

◆相談センター・・・市民同士の相談の意味・支援検討会議・包括性・地域に協議会、役場の組織再編 etc

◆専門職の課題・・・道徳論と再階層化 育成 ※1000人強で10数名の社会福祉士

◆福祉事務所 CW の統合論と分離論、自治体職員でなければわからない現実の可視化、現場をベースにした地域の行学共同、研究活動

◆その他・・・当事者主体性論と支援など運動、新しい公共と公など

“居場所づくりから地域づくり”への試み

